



い も る

'82
7月

第292号



働く人

岸壁に響き わたるセリの声

角谷 優さん

腹の底からしぼり出すような声。朝8時半。威勢のいいセリ声が響きわたる。

瞬時に、頭に番号札をつけた買い受け人にセリ落していく角谷さん。

「昨年、北海道市場協会の試験に合格して、一人前のセリ人になりました。

最高で何千万という額を扱った時もありましたが、最近では200万から1000万円の間といった所ですか。

僕らの仕事は、相場を維持していくのが一番の苦労です。

底引き船が来る11月～3月夏いかの時期、まがれいの取れる時など、季節によって市場に出回る品物も違います。もともと漁師の息子ですので、魚との付き合いは古いですし縁が切れないですね。」

市場は、まるで外国語の世界。何を言っているのか、サツパリ聞き取れない。

でも一週間もすると、セリ言葉が解ると言います。

(市地方卸売市場セリ人)